

□ 主な内容

【第 6 回 EST 交通環境大賞の募集開始！】

今年度も EST 交通環境大賞の募集を開始しました。全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2014.html>

【平成 26 年度に開催するセミナー・研修会の募集開始！】

以下のセミナー・研修会の参加者募集を開始しています。皆様のご参加をお待ちします。

〔9/2 第 4 回地域バス交通活性化セミナー(一関)〕

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/4th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/4th_seminar.html)

〔9/22 四国 EST 創発セミナー(高松)〕

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu31.html>

〔10/8-10 第 4 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(富山)〕

<http://www.estfukyu.jp/training2014.html>

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 96 回)

●「歩きたい安全安心なまちづくりへ - ソフトライジングポラード」

【埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門助教 小嶋 文】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 96 回)

●「持続可能な公共交通に向けた新潟市の取組について」

【新潟市都市政策部新交通推進課 中山 猛】

3. ニュース／トピック

●第 6 回 EST 交通環境大賞の応募を開始【EST 普及推進委員会】

●まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業の案件募集について【国土交通省】

●「超小型モビリティの導入促進」事業の対象案件の決定について【国土交通省】

●平成 26 年度「モーダルシフト等推進事業」(補助事業)の募集について【国土交通省】

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

●平成 26 年度地域公共交通優良団体表彰について【国土交通省】

●「クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金」の公募開始について【経済産業省】

- 「スマート・ムーブ～『移動』を『エコ』に。～」キャンペーンについて【環境省】
- 平成 26 年度低炭素化に向けた公共交通利用転換事業に係る補助事業者の募集の採択結果について【環境省】
- アジア地域の気候環境対策に関する環境省と国連環境計画 (UNEP) 及びクリーン・エア・アジア (CAA) の協力について【環境省】
- 超小型モビリティ エンドユーザー向けモニター調査の実施について【関東運輸局】
- ハイブリッドトラム実走試験の開始について【ハイブリッドトラム実走事業実行委員会】
- トヨタ自動車、セダンタイプの燃料電池自動車を、日本で 2014 年度内に 700 万円程度の価格で販売開始【トヨタ自動車】
- 「第 4 回 EV・PHV 写真コンテスト」について【関西広域連合】
- 欧州環境首都にスロベニアの首都リュブリャナ市を選出【欧州委員会】

#### 4. イベント情報

- 四国 EST 創発セミナー「多核連携型コンパクト・エコシティの実現を目指して」【2014/9/22】
- 第 4 回地域の交通環境対策推進者養成研修会 (富山市)【2014/10/8-10】
- 路面電車サミット in 高岡【2014/7/26】
- 第 7 回 MM (モビリティ・マネジメント) 技術講習会【2014/7/31-8/1】
- 一般財団法人 地域公共交通総合研究所 第 2 回シンポジウム「交通政策基本法」 「地域公共交通活性化再生法」への実務対応【2014/8/7】
- 大阪市営交通 110 周年記念シンポジウム【2014/8/24】
- 第 6 回土木と学校教育フォーラム【2014/8/31】
- 第 4 回地域バス交通活性化セミナー「『バスの力』で地域を元気にできるのか？」【2014/9/2】
- 第 22 回地球環境シンポジウム【2014/9/3-5】
- バスフェスタ 2014 in Tokyo【2014/10/4】
- 第 12 回 ITS シンポジウム 2014【2014/12/4-5】
- エコプロダクツ 2014 (第 16 回)【2014/12/11-13】

#### 5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- 交通環境学習を实践する小中学校を募集しています！（9/30 まで）
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習 (モビリティ・マネジメント教育) メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

=====

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 96 回)

●「歩きたい安全安心なまちづくりへ — ソフトライジングボラード」

【埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門助教 小嶋 文】

「環境的に持続可能な交通」として、まず思い浮かぶのは、やはり徒歩ではないでしょうか。ここでは、歩きたい街を実現するための、新たなツールをご紹介します。

今年の 4 月、「出る杭」という見出しで、毎日新聞にある交通社会実験の記事が掲載されました。ここで出る杭と呼ばれているのが、新たな交通安全対策、ライジングボラードというツールです。ライジングボラードは、遠隔操作により自動で昇降する車止めで、自動車の通行を制限したい道路に設置するものです。スクールゾーンの規制時間帯にだけライジングボラードを上昇させたり、通行が認められる自動車にのみ、ライジングボラードを降下させるリモコンや IC カードを配布することで、選択的な通行環境において交通規制の順守を促進できます。

こうした対策は、欧州では 1980 年代から導入されており、歩行者ゾーンの外縁を取り囲んで設置されるなど、現在では広く普及しています。しかしながら、従来欧州で用いられているライジングボラードは鋼鉄製であり、交通規制をやぶって無理やり通行しようとするドライバーが衝突事故を起こすなど、問題も起こっていました。安全な道路空間を実現するために、有効なツールであることは認められていましたが、日本では法的な位置づけが整理されていなかったこともあり、公道への導入はされていませんでした。

こうした中、万が一衝突しても本体の故障や自動車の破損がない「ソフトな」ライジングボラードが開発されました。このソフトな材質を前提に、道路交通法、道路法双方における位置付けが定まり、平成 25 年 10 月に、社会実験として日本で初めて公道での運用がなされたのです。新潟市と公益財団法人国際交通安全学会により、新潟市の商店街「ふるまちモール 6」で実施されたこの社会実験は、大きな問題なく、無事に終了し、規制順守の効果も得られています。これを契機に、ライジングボラードが日本でも普及することで、歩行者に優しい、環境的に持続可能な交通環境の整備が、ますます進んでほしいと思います。

---

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 96 回)

●「持続可能な公共交通に向けた新潟市の取組について」

【新潟市都市政策部新交通推進課 中山 猛】

新潟市では、超高齢社会や環境問題、健康づくりやまちなか活性化といった社会的な要請に対応するため、公共交通や自転車・歩行者を重視したまちづくりを進めており、過度にマイカーに依存しなくても誰もが快適に移動できる交通環境の実現に向け、地域のニーズや人の移動特性などを考慮して施策を進めています。

一方で新潟市のバス輸送の実態は、昭和 45 年ごろをピークに利用者は減少の一途をたどり、最近 10 年で約 40%も減少しました。利用者数の減少はバス路線の減便・廃止を招き、ここ 10 年でバス便数が約 20%も減少するといった悪循環が続いています。

この負の連鎖を断ち切るため、平成 27 年夏前を目処に新潟駅から青山までを区間とする BRT の導入と全市的なバス路線の再編による「新バスシステム」を導入することとしました。



この「新バスシステム」は、都心軸(新潟駅～市役所前)で重複しているバス路線を、一般バスよりも運転手一人あたりの輸送力が約 2 倍である連節バスを核とした BRT の運行により効率的に集約・再編することにより生じた余力(車両・人員)を、郊外路線に充当し、郊外路線の維持・拡充を図ることにより、全市的に持続可能な公共交通体系の構築を目指すものです。(下図参照)

新バスシステムイメージ図



平成 26 年 4 月には新潟交通(株)と新バスシステム事業にかかる運行事業協定を結び、また、6 月には BRT が市民等に分かりやすく、利用しやすいものとするための、トータルデザインの考え方を公表しました。

現在、連節バスの製造や交通結節点の整備を進めていますが、今後は連節バスの愛称募集を行うなど、新バスシステムの導入に向け、機運向上を図っていきたいと考えています。

### 各施設のデザイン

BRT車両



シンボルカラーを車両前面の外周にリング状に配色しつつ、連続性を持たせることで、連節バスの車両感を活かしたデザインとするほか、車両の前面もフルカラーとして明るさや先進性を表現

シートのパターンに幾何学系をモチーフとしたストライプやたたかみのある色影を採用し、手の触れる床面に木材を用いるなど、馴染みやすい空間感をつくりながら、もっとなごやかなる駅内環境を表現



交通結節点 (例: 市役所ターミナル) 連節バスとターミナルを一体的にデザイン



※その他の交通結節点においても、シンボルカラーとシンボルロゴを展開することにより、分かりやすさの向上を図ります。

自然光を取り入れ、自然光を取り入れることで明るく開放的なデザイン



BRT駅 上層の頂部にシンボルカラーとシンボルロゴを展開した印象的な外観



※上層を設置しない場合のBRT駅のデザインについても、同様のコンセプトで整備を行います。

### 3. ニュース／トピック

#### ●第6回 EST 交通環境大賞の募集を開始【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の募集を開始しました。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2014.html>

#### ●まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業の案件募集について【国土交通省】

国土交通省では、低炭素社会の実現に向けて、まち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化を推進するため、都市規模、地域特性等に応じたモデル構築を図っていくこととしています。このたび、地方公共団体、民間事業者等による先導的な構想策定を支援するため、案件募集を行うことと致しました。将来的にまち・住まい・交通の一体的な創蓄省エネルギー化に向けた事業実施を目指す地方公共団体、民間事業者等から、幅広く企画提案(将来像、目標、取組方針等)を募集します。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10\\_hh\\_000096.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000096.html)

<http://www.jri.co.jp/company/release/2014/140714/>

#### ●「超小型モビリティの導入促進」事業の対象案件の決定について【国土交通省】

国土交通省では、超小型モビリティの普及や関連制度の検討に向け、地方公共団体等の主導によるまちづくり等と一体となった先導導入や試行導入の優れた取組みを重点的に支援する「超小型モビリティの導入促進」事業を実施します。この度、応募のあった事業計画について、外部有識者の評価結果も踏まえて選定し、本事業の支援対象とする案件 10 件(51 台)を決定、公表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000126.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000126.html)

●平成 26 年度「モーダルシフト等推進事業」(補助事業)の募集について【国土交通省】

国土交通省では、温室効果ガスの排出削減による地球温暖化の防止と低炭素型の物流体系の構築を図るため、荷主企業及び物流事業者等物流に係る関係者によって構成される協議会が実施するモーダルシフト等の取組みを支援する「モーダルシフト等推進事業」(補助事業)の募集を開始しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01\\_hh\\_000137.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000137.html)

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

国土交通省では、環境性能に特に優れた電気自動車の普及を効果的に加速し、低炭素まちづくりや地域・交通事業のグリーン化を推進する観点から、先駆的事业を行う自動車運送事業者等を重点的に支援する「地域交通グリーン化事業」を実施しています。この度、応募のあった事業計画について、外部有識者による評価結果も踏まえて選定し、本事業の支援対象とする案件 18 件(車両 40 台、充電設備 9 基)を決定、公表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10\\_hh\\_000125.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000125.html)

●平成 26 年度地域公共交通優良団体表彰について【国土交通省】

国土交通省では、地域公共交通に関する取組が他地域の模範となるような顕著な功績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図ることを目的に、地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を実施しており、今年度の受賞団体 5 団体を発表しました。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03\\_hh\\_000129.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000129.html)

●「クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金」の公募開始について【経済産業省】

経済産業省では、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車等の導入に対する補助を行う「平成 26 年度クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金」について、一般社団法人次世代自動車振興センターにおいて公募を開始しました。

<http://www.meti.go.jp/press/2014/07/20140701008/20140701008.html>

●「スマート・ムーブ～『移動』を『エコ』に。～」キャンペーンについて【環境省】

環境省では、地球温暖化防止活動の一環として、「『移動』を『エコ』に。」をテーマに、CO2 排出量の少ない「移動」を推進する「smart move(スマート・ムーブ)」キャンペーンを展開しています。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18334>

●平成 26 年度低炭素化に向けた公共交通利用転換事業に係る補助事業者の募集の採択結果について【環境省】

環境省では、平成 26 年度低炭素化に向けた公共交通利用転換事業に係る補助事業者の募集について、4 件の応募があり、厳正な審査の結果 2 件を採択しました。本補助金は、このマイカーから公共交通への転換を推進するための公共交通利用転換事業計画の策定(公共交通利用転換事業計画策定調査)及び当該計画の具体化のために必要となる事業(公共交通利用転換事業)の実施に要する経費の一部を補助するものです。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18448>

●アジア地域の気候環境対策に関する環境省と国連環境計画(UNEP)及びクリーン・エア・アジア(CAA)の協力について【環境省】

環境省では、アジア地域における清浄な大気の共有を図るため、国連環境計画(UNEP)及びクリーン・エア・アジア(CAA)と協力し、地域、国、都市を対象とする様々な活動を推進します。11 月にアジア地域の気候環境に関する合同フォーラムを開催します。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18463>

●超小型モビリティ エンドユーザー向けモニター調査の実施について【関東運輸局】

関東運輸局では、超小型モビリティを自家用車として使用する事例を積み上げることを目的として、4 世帯へ超小型モビリティを約 60 日間貸し出し、使用した場合における車両安全性に関する問題点や今後の活用方策等の抽出を行うためのモニター調査を行います。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1407/ct\\_p1407152.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1407/ct_p1407152.pdf)

●ハイブリッド tram 実走試験の開始について【ハイブリッド tram 実走事業実行委員会】

ハイブリッド tram 実走事業実行委員会では、万葉線において、省エネルギー化の推進、市民への公共交通への理解・関心の向上を図ることを目的に、新しい鉄道技術を背景として鉄道総合技術研究所が開発した環境配慮型車両「ハイ！ tram」の実走試験を開始します。

<http://www.manyosen.co.jp/news/img/hitoramu.pdf>

●トヨタ自動車、セダンタイプの燃料電池自動車を、日本で 2014 年度内に 700 万円程度の価格で販売開始【トヨタ自動車】

トヨタ自動車(株)は、セダンタイプの新型燃料電池自動車(FCV)を公開するとともに、発

売時期、および日本での車両本体価格の目途と販売チャネルを公表しました。日本では、2014 年度内に販売を開始します。販売は、トヨタ店とトヨペット店が扱い、当面は、水素ステーションの整備が予定されている地域およびその周辺地域の販売店が中心となる見込みです。価格は、700 万円程度を予定しています。米国・欧州では、2015 年の夏頃の発売に向け準備を進めており、価格は、今後、決定します。

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/mail/3274916>

●「第 4 回 EV・PHV 写真コンテスト」について【関西広域連合】

関西広域連合では、“あなたの街の EV・PHV が似合う風景”を募集テーマに、関西広域連合の地域内(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、徳島県、鳥取県の各府県内)で、EV・PHV が写っている街や観光地の風景写真を募集しています。

<http://www.kouiki-kansai.jp/contents.php?id=1539>

●欧州環境首都にスロベニアの首都リュブリャナ市を選出【欧州委員会】

欧州委員会は、スロベニアの首都リュブリャナ市を 2016 年欧州環境首都に選出したことを公表しました。リュブリャナ市では環境保護プログラム、持続可能なモビリティ計画、持続可能なエネルギー行動計画、電気自動車戦略が策定・実行されており、同市の統合アプローチに基づく持続可能な都市づくりが評価されました。市内の交通の流れを変更し、自動車交通の制限、そして徒歩交通や自転車交通、公共交通に対する優先政策を導入するなど、交通部門の評価も高く、自転車シェアリングシステムも導入され多く利用されています。

[http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-14-719\\_en.htm](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-14-719_en.htm)

---

#### 4. イベント情報

●四国 EST 創発セミナー「多核連携型コンパクト・エコシティの実現を目指して」

日時: 2014 年 9 月 22 日(月) 13:30~16:45

場所: サンポートホール高松 6 階 61 会議室

主催: 四国運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu31.html>

●第 4 回地域の交通環境対策推進者養成研修会(富山市)

日時: 2014 年 10 月 8 日(水)~10 日(金)

場所: ポルファートとやま 翡翠の間ほか

主催: EST 普及推進委員会、エコモ財団、北陸信越運輸局

<http://www.estfukyu.jp/training2014.html>

●路面電車サミット in 高岡



日時:2014年7月26日(土)

場所:ウイング・ウイング高岡 4F 高岡市生涯学習センターホール

主催:路面電車と都市の未来を考える会・高岡(通称:RACDA 高岡)

<http://ractama.cocolog-nifty.com/blog/2014/01/racda-4c56.html>

●第7回 MM(モビリティ・マネジメント)技術講習会

日時:2014年7月31日(木)、8月1日(金)15:30

場所:アルカディア市ヶ谷

主催:一般財団法人計量計画研究所

<http://www.ibs.or.jp/release/512>

●一般財団法人 地域公共交通総合研究所 第2回シンポジウム「交通政策基本法」  
「地域公共交通活性化再生法」への実務対応

日時:2014年8月7日(木)13:30~17:20

場所:岡山国際交流センター2階「国際会議場」

主催:一般財団法人 地域公共交通総合研究所

[http://chikoken.org/simpo\\_20140807.html](http://chikoken.org/simpo_20140807.html)

●大阪市営交通 110周年記念シンポジウム

日時:2014年8月24日(日)14:00~17:00

場所:大阪市中央公会堂 大集会室

主催:大阪市交通局

<http://osaka-subway110.jp/>

●第6回土木と学校教育フォーラム

日時:2014年8月31日(日)9:00~17:00

場所:土木学会(講堂、A,B,C会議室)

主催:土木学会

<http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp/cvilandeducation/forum6.html>

●第4回地域バス交通活性化セミナー「『バスの力』で地域を元気にできるのか？」

日時:2014年9月2日(火)13:30~16:45

場所:ホテルサンルート一関 2階「芙蓉」

主催:エコモ財団、国土交通省東北運輸局

[http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/4th\\_seminar.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/4th_seminar.html)

●第22回地球環境シンポジウム

日時:2014年9月3日(水)~5日(金)  
場所:中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)  
主催:土木学会

<http://committees.jsce.or.jp/global/sympoC>

●バスフェスタ 2014 in Tokyo

日時:2014年10月4日(土)  
場所:都立代々木公園・ケヤキ並木  
主催:公益社団法人日本バス協会

[http://www.bus.or.jp/event/pdf/press\\_20140619.pdf](http://www.bus.or.jp/event/pdf/press_20140619.pdf)

●第12回 ITS シンポジウム 2014

日時:2014年12月4日(木)、5日(金)  
場所:東北大学百周年記念会館 川内萩ホール  
主催:特定非営利活動法人 ITS Japan

[http://www.its-jp.org/event/its\\_symposium/its\\_symposium12/](http://www.its-jp.org/event/its_symposium/its_symposium12/)

●エコプロダクツ 2014(第16回)

日時:2014年12月11日(木)~13日(土)  
場所:東京ビッグサイト 東ホール  
主催:一般社団法人 産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/eco2013/contact/2014.html>

---

## 5. その他

●EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013年7月16日から募集を開始し、38団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

[http://www.estfukyu.jp/partnership\\_gaiyo.html](http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html)

●交通環境学習を实践する小中学校を募集しています！（9/30まで）

[http://www.mm-education.jp/gakkou\\_sien.html](http://www.mm-education.jp/gakkou_sien.html)

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

[http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon\\_offset/carbonoffset\\_system.html](http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html)

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

→ E-mail: magazine@ecomom.or.jp (担当: 熊井)

=====

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局  
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

[https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail\\_ecomo](https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo)

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>